

厚生科学研究費補助金（生活安全総合研究事業）
分担研究報告書

日本人正常男性の生殖機能に関する総合的研究
—妊婦のパートナーを対象とした全国調査(福岡地区)—

研究協力者 小松 潔 総合病院原三信病院 診療部長

研究要旨 内分泌かく乱物質による男性生殖機能の影響に関して調査する為には、まずは正常男性の男性生殖機能の正確な正常値を作成する必要がある。本研究は共通のプロトコルのもとで妊娠能を有する男性を対象として日本人男性の正常生殖機能を明らかにしようとするものである。

A. 研究目的

本研究では自然妊娠した女性のパートナー、すなわち妊娠能を有すると考えられる正常男性の生殖機能について精液所見、精巣サイズ、血中ホルモン濃度、そしてカップルからのライフスタイルや健康にかかわる情報を分析し、現在における正常男性の生殖機能のデータベースを作成することである。さらに、すでに本調査が行われているデンマーク、スコットランド、フランス、フィンランドなどのヨーロッパ諸国のデータと比較して相違が存在するのか、その原因は何かを明らかにしたい。

B. 研究方法

研究対象者は福岡在住で妊娠が確認され、診察を継続しているカップルである。条件として、1. 男性パートナーが 20-44 歳、2. 精液検査と採血は妊娠 16 週から出産までの間、3. 自然妊娠であること、4. 対象者とその母親が日本で出生したことである。

妊婦は質問表に回答するのみ、男性パートナーは質問表のほかに、泌尿器科診察、精液検査、採血を行う。精液検査は共通した手順にて当施設で行い、質問表、精液、血液サンプルはフランスとデンマークで一括解析を行う。また精液検査の精度管理の為、主任研究者施設よりサンプルが配布されその検査値を定期的に報告した。

C. 研究結果

平成 11 年度は 3 月 25 日の時点で 8 カップルの調査を終えた。福岡地区におけるパンフレット配布枚数および説明人数は 140 名であった。参加者の割合は主任研究者で施行された時のものと比べ非常に少なかった。

D. 考察

このような調査に当たっては、1. 対象者の選び方、2. 精液検査結果の精度管理は、結果の解析に当たって決定的に重要である

ことは明らかである。そのため産科病院の協力は必須であるが、福岡市内では診療上の不安から協力病院は1施設にとどまり、さらに産科病院での院内活動に制限を強いられ十分な成果を上げるに困難をきわめた。参加率が低い理由はこの為である。福岡市内の産婦人科だけでは多数の参加者が望めないと判断し市外に協力できる病院を求めた。新しい協力産科病院は福岡市外であるが主任研究者施設の参加者募集のシナリオを生かした調査が可能である。今後、さらに協力産科病院を増やし参加者の増加を図りたい。

E. 結論

協力病院を確保しコーディネーターと連携を充実させ参加者の増加を図る必要がある。

F. 研究発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし